

一ページ、一ページ、ずんずん進んで、最後に近づく。

今度は「徹底整理」の参考書を取り出し、重要項目の暗記に取りかかる。一通り、目を通すと、何となく、安心感がわく。

下の柱時計が四時を打つ。

その音が、鈍くて、「ぐうとん、ぐうーん」と聞こえる。

目が重い。いつの間にか、ぐっすり行ってしまった。

六時五十分、おばあちゃんにたたき起こされる。

びっくりした。

急いで、すぐ、家を出る。

おとついの土曜日と同じく、「通学時間を無駄にせん」とて、電車とバスの中、一心に、本にかじりつき頑張る。今日で試験は終わりである。

しかし、臨時朝礼があった。

「こんな時に、本当に、こまるなあ。」と、僕はにがい顔で、皆と、ソロソロ講堂に入った。